スポニチ後援第44回
全日本クラブ野球選手権大会最終日
（29日　メットライフドーム）

マツゲン箕島硬式野球部2年ぶり5度目V

▽決勝
OBC高島　000 000 000 0
マツゲン箕島硬式野球部　200 010 2X 7
（7回コールド）
（O）吉井、山下―橋本辰
（マ）和田―水田

準決勝2試合に続いて決勝があり、マツゲン箕島硬式野球部（西近畿）がOBC高島（東近畿）を7―0の7回コールドで下し、2年ぶり5度目の優勝を飾った。今春、左肩腱板痛で苦しんだ和田拓也投手(25)が大会直前にサイドスローに転向し7回1安打完封。今大会2勝をマークし2度目の最高殊勲選手賞（MVP）に輝いた。チームは秋に開催される社会人野球日本選手権（京セラドーム）の出場権を獲得した。

和田1安打完封 昨年決勝の雪辱

歓喜の表情で和田がトロフィーを掲げた。「（優勝を）取り返す気持ちで丁寧に投げました」。わずか1安打での完封劇。1年前、大和高田クラブとの決勝で6回途中5失点KOされた苦い記憶を振り払った。

春先は地獄だった。左肩腱板痛で4、5月は投球禁止。「5カ所以上の病院をはしごしてもダメ」。7月末になっても痛みは治まらない。「半ば開き直って」と横手投げに転じたら痛みは消え、打者の反応も一変した。

右打者の内角、左打者の外角に直球、ツーシームが決まる。「ケガの功名。攻め方が広がった」。大会直前、都市対抗8強入りした日本生命とのオープン戦で4回1失点。「チームは去年の忘れ物を取りに来たけど、和田は素晴らしいの一言」と西川忠広監督は復活したエースを称えた。

次の目標は日本選手権で「初白星」を挙げることだ。「今の投球スタイルをもう一度鍛えます。今川君に投げたい」。都市対抗で優勝し若獅子賞を獲得したJFE東日本のルーキーとの対戦を夢見た。（伊藤　幸男）

西川監督（中央）を胴上げするナイン

◇全日本クラブ野球選手権表彰選手◇

最高殊勲選手賞	和田　拓也（マツゲン箕島硬式野球部）
敢闘賞	山下　聖也（OBC高島）
首位打者賞 打率.643	夏見　宏季（マツゲン箕島硬式野球部）

ミラクルならず

▽準決勝
OBC高島　000 000 050 5
大和高田クラブ　100 021 000 4
（O）永井、山下―橋本辰
（大）松林、金村、本野―真鍋、恩庄
（本）肥田（大）

マツゲン箕島硬式野球部　112 000 020 6
ビッグ開発ベースボールクラブ　000 002 000 2
（マ）松尾、梅原―中原、水田
（ビ）小浜、宮城、天久―照屋

▼大和高田クラブ佐々木恭介監督（元近鉄監督。準決勝で4―0の8回に5失点で連覇ならず）野球は怖い。その一言に尽きる。

＜OBC高島▽準決勝で前年王者を大逆転で下し初の決勝進出も、最後に力尽きた。わずか1安打に封じられ、先発した吉井は四球から崩れた。元阪神の野原祐也監督は「力のない中で選手は必死に立ち向かってくれた。監督が未熟で申し訳なかった」と選手の健闘を称えた。GMを務める大家友和DeNA2軍投手コーチに優勝報告はできなかったが、指揮官は「胸を張って高島（滋賀）に帰りたい」と大きな経験を収穫とした。